PHARMA FOODS INTERNATIONAL CO.,LTD.
株式会社ファーマフーズ

中期経営計画2029

2026年10月16日

株式会社ファーマフーズ

JPX PRIME TOKYO

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

【免責事項】
本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

©Pharma Foods International co., Ltd.

アジェンダ

（1）中期経営計画2026「新価値創造1Kプロジェクト」総括

（2）中期経営計画2029 説明

中期経営計画2026「新価値創造1Kプロジェクト」総括

新価値創造 1K

1 新製品

2 新市場

3 新組織

中期経営計画2026「新価値創造1Kプロジェクト」総括



【新価値創造1Kプロジェクトの総括】

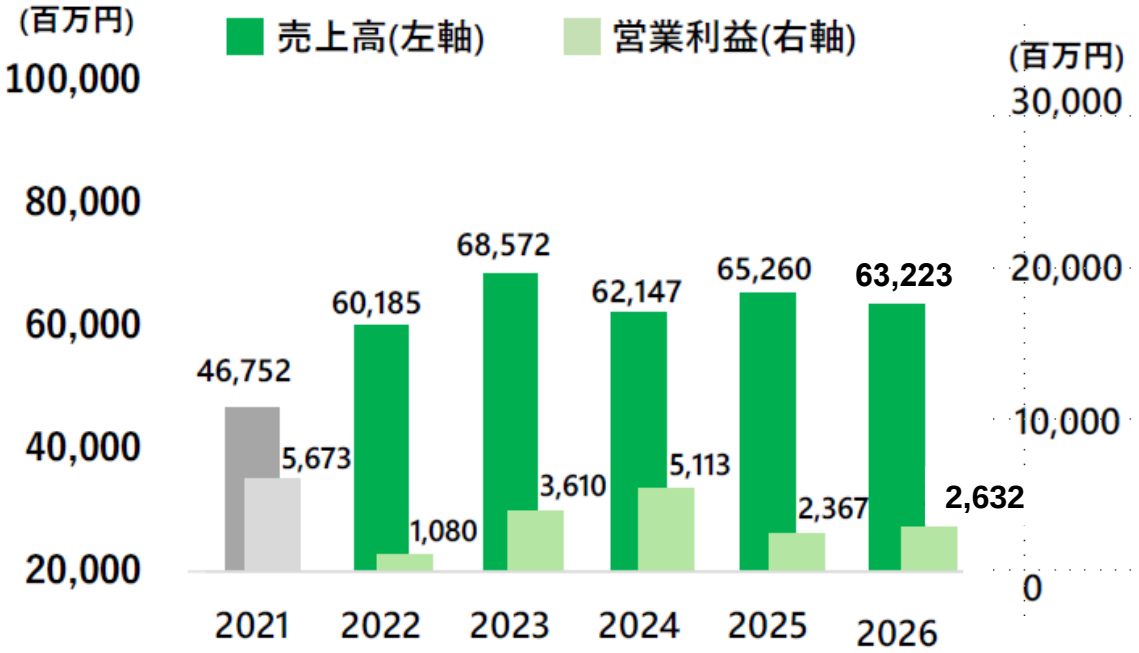
- 売上1,000億円の目標には届かなかった。700億円の壁を越えることができなかった。M&Aは積極的に活動したが、期間内の成立はできなかった。

- 売上は’21年の468億円から’26年は632億円へ成長。BtoBは海外にて顕著に成長。BtoCではニューモを収益の柱と据えつつ、DRculaやラクトロン錠など次の柱を育成。

- 新規事業「創薬、繊維、アグリ」は、積極投資により次の成長に向けた事業基盤が確立。

「新価値創造1Kプロジェクト」　財務目標の達成状況

売上高・営業利益

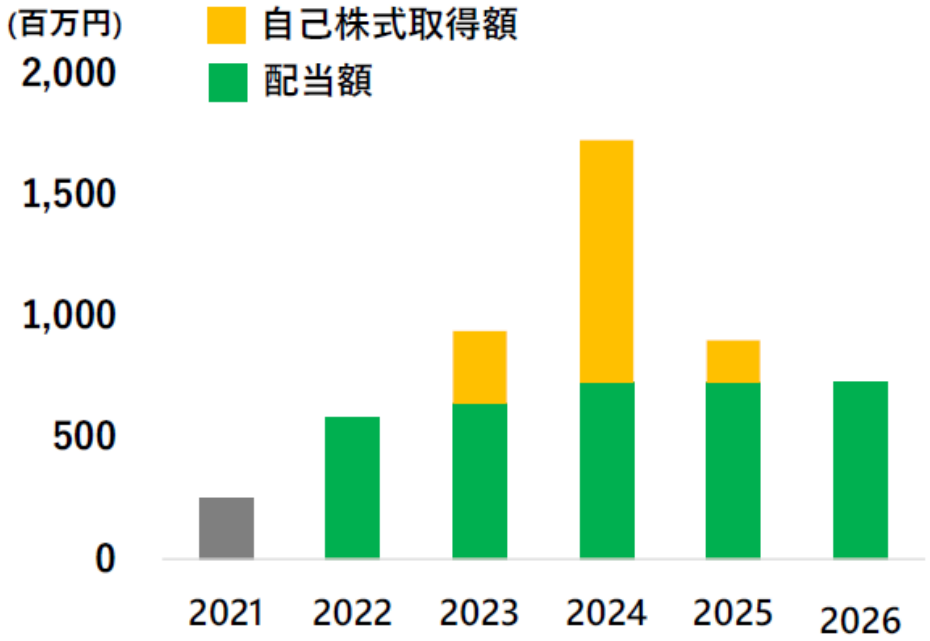


売上高成長率	28%	13%	-9%	5%	-2%	20%

財務目標：売上高年平均成長率 20%

2023年7月期までの売上高成長は計画を上回るペースで推移。M&Aや新規事業の収益化に取り組んできたが、目標未達となった。

株主還元



総還元性向	-	30%	53%	197%	38%

財務目標：総還元性向 20%

当期純利益が▲374百万円となった2022年7月期を除いて、総還元性向20%を超える実績となったが、収益性とのバランスが課題。

BtoB事業(国内)：安心安全・高品質により大手採用が継続



ボーンペップを配合した
子供の成長期応援飲料
（2007年に発売開始）



PharmaGABA配合の
メンタルケア チョコレート
（2006年から発売開始）





PharmaGABA配合の
ストレス・睡眠ケア商品が
大手飲料・乳業メーカーから発売

BtoB事業(国内): サプリに加え、一般食品にも機能性が拡大



ごま鮭
(GABA: 血圧)

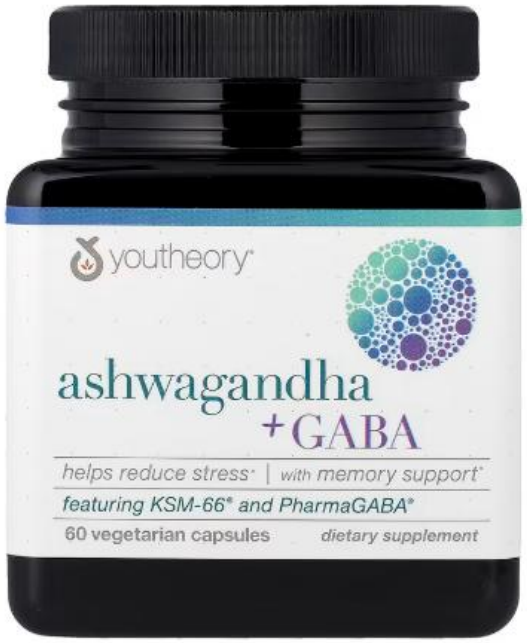


梅ひじき
(カテキン: お腹まわりの脂肪)

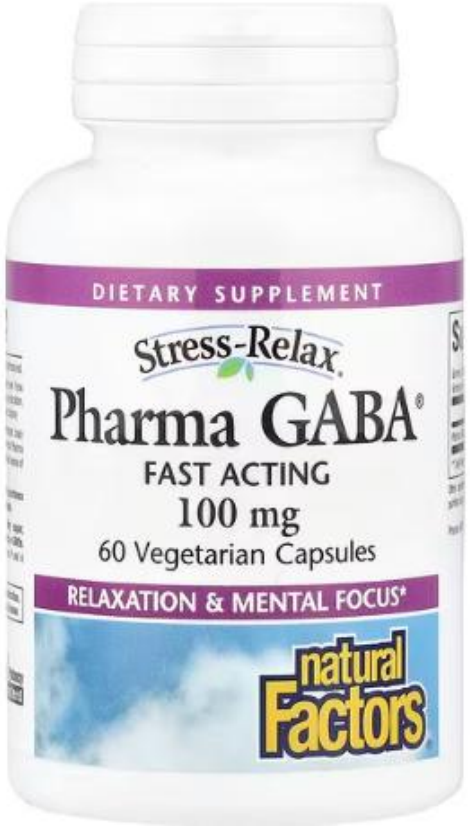
BtoB事業(海外)：国内中心から、海外が大きな成長ドライバーに推移



USA



USA



Canada



Thailand



Thailand

BtoC事業：独自素材を活かしたカテゴリートップ・ブランドを育成

育毛剤「ニューモ」

累計出荷数3,324万本
5年連続売上世界No.1※1



※1 TPCマーケティングリサーチ㈱調べ
（2020 - 2024）

ひざ関節サプリ「タマゴサミン」

累計出荷数858万袋※3
機能性表示食品としてリニューアル



※3 タマゴサミンSP
＋機能性表示食品タマゴサミン合算

まつ毛美容液「WMOA」

累計出荷数371万本
2年連続売上世界No.1※2



※2 TPCマーケティングリサーチ㈱調べ
（2023 - 2024）

累計出荷数は2026.8.31 現在

BtoC事業：「オムニチャネル戦略」により新規顧客を開拓

コストコ
育毛剤「ニューモ」



LOFT
まつ毛美容液「WMOA」



LOFT
クリームシャンプー「KURUB」



*一部のLOFT店舗には配荷されない可能性がございます

バイオメディカル事業：抗体技術ALAgeneのアライアンス成功

1 田辺ファーマ

- ’21年に導出した「自己免疫疾患向け 抗体医薬品候補」について、’24年6月にPMDAへの初回治験計画届を提出し、30日調査が完了。
- ’25年7月に第Ⅰ相単回投与臨床試験が完了。それぞれでマイルストーン達成。

田辺ファーマ

2 武田薬品工業

- ‘25年7月、ALAgene®で取得した抗体に関して、抗体配列情報をライセンスアウト。

Takeda

バイオメディカル事業：「創薬企業」から「製薬企業」へ。共同開発が加速

●AI創薬による抗体医薬品創出



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学大学院 工学系研究科長
工学部長　津本浩平 教授
AIを活用した「次世代抗体創薬プラットフォーム」を共同開発。

●難病創薬によるペプチド医薬品創出



国立循環器病研究センター
副院長　猪原 匡史 先生
「カダシル創薬研究部」を共同設立。
「アドレノメデュリン」開発を推進。

アジェンダ

（1）中期経営計画2026「新価値創造1Kプロジェクト」総括

（2）中期経営計画2029 説明

PFIグループあるべき姿「研究開発型企業」

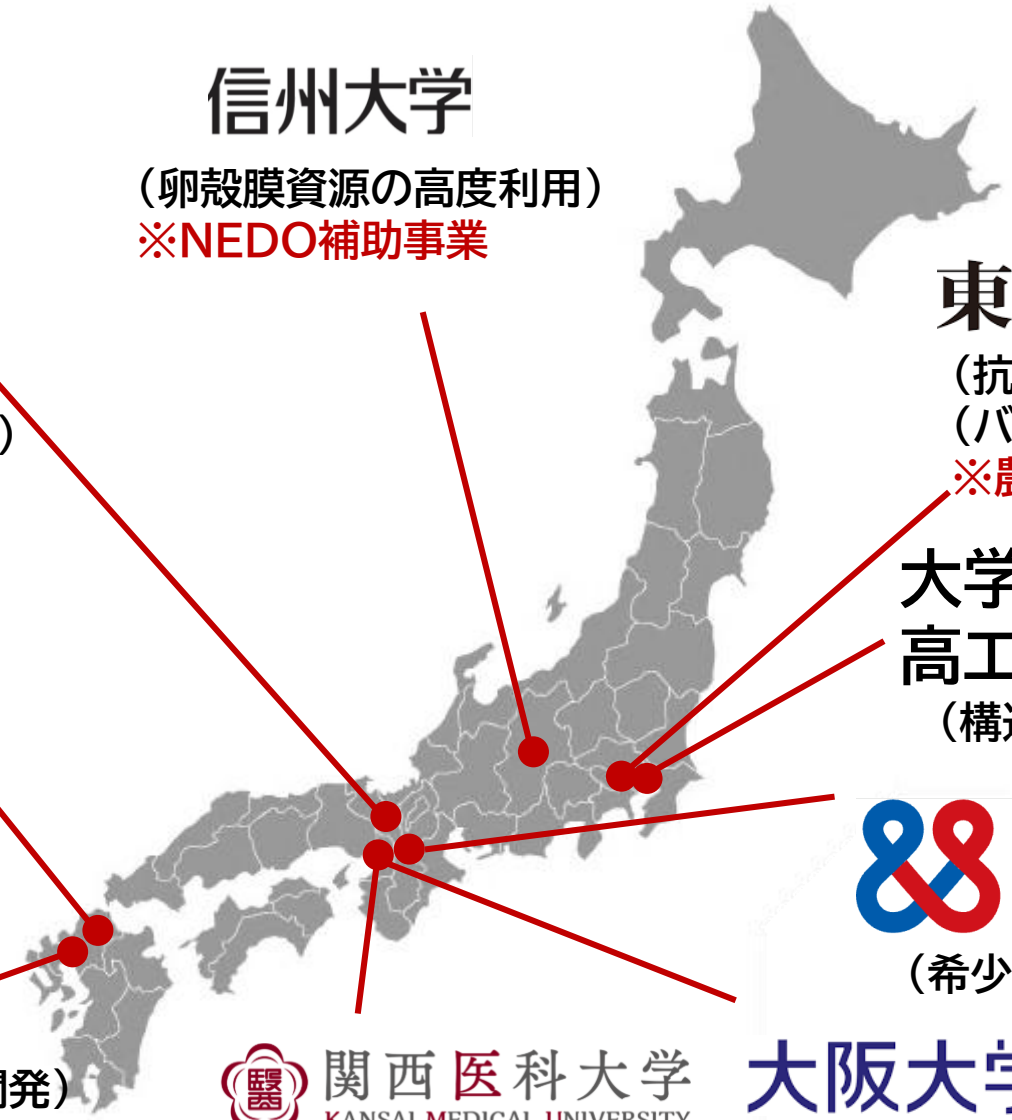


創業当時の写真（左端が代表取締役･金武祚）

ここには
夢がある
笑がある

創業から揺るぎない企業理念

強力な研究体制：大学や研究機関と連携し、イノベーション創出を構築



京都大学
（機能性アミノ酸の研究開発）

京都府立医科大学
（ペプチド機能の研究開発）
（眼領域に対する抗体医薬開発）

京都府立大学
（食品素材の研究開発）

九州大学
（食品機能のメカニズム解析）

佐賀大学
（バイオスティミュラントの研究開発）
※農水省補助事業

信州大学
（卵殻膜資源の高度利用）
※NEDO補助事業

東京大学
（抗体創薬プラットフォーム技術の開発）
（バイオスティミュラントの研究開発）
※農水省補助事業

大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構
（構造解析に関する研究開発）

国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
（希少疾患の新薬開発）

関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY
（ヒトがん細胞を用いた研究開発）

大阪大学
（脳卒中予防の研究開発）

ファーマフーズ 総合研究所 所長　佐藤 健司

研究体制の強化



京都大学 名誉教授
ファーマフーズ　総合研究所所長

機能性ペプチド研究

身体内で真に生理機能を有する
機能性ペプチドを数々発見。

味噌や醤油など発酵食品中から
新たな機能性ペプチドを発見。

**卵、米、発酵食品などに隠された
“未知の機能性ペプチド”を発見し
機能性ペプチド研究の常識を変える**

「PFサイエンス奨学金」を設立し、次世代研究者の育成



ライフサイエンス分野の若手研究者の育成を目的に、
2024年にPFサイエンス財団を設立。26年4月には第2期奨学生6名を迎えた。

ファーマフーズの事業領域における「5つの柱」

・バイオ技術をコアとし、5つの領域（食品・化粧品・創薬・繊維・アグリ）に展開。

・5つの領域に適した新素材や製品を創出し、健康・環境の課題解決と社会の発展に貢献する。



中期経営計画2029
「1Kプロジェクト -SPRING戦略-」

中期経営計画2029「1Kプロジェクト -SPRING戦略-」基本方針

01　新規事業の積極育成

新規事業「創薬、繊維、アグリ」を積極育成し、次の事業の柱に。

02　財務基盤の徹底強化

基盤事業の営業CFを安定化・黒字化させ、財務基盤を強化。

03　連続的なM&A事業

M&A事業等を通じて、飛躍的成長で「1K達成」に挑む。

01 成長事業「創薬」：抗体技術を基盤に製薬企業に成長

2030年に
創薬から製薬企業へ

’06年
創薬研究
を開始

ALAgene®

‘19年
創薬研究所
を開設



’18年
田辺ファーマ*
と共同研究
*旧 田辺三菱製薬

’21年
田辺ファーマ*
へ導出
（MT-3534）

’24年
臨床試験開始
マイルストン達成

’25年
世界初「カダシル創薬研究部」を
国立循環器病研究センターと設立

国立研究開発法人
国立循環器病研究センター

’26年
カダシル治療薬候補を
ライセンスイン

01 指定難病「カダシル」に対する新薬の開発

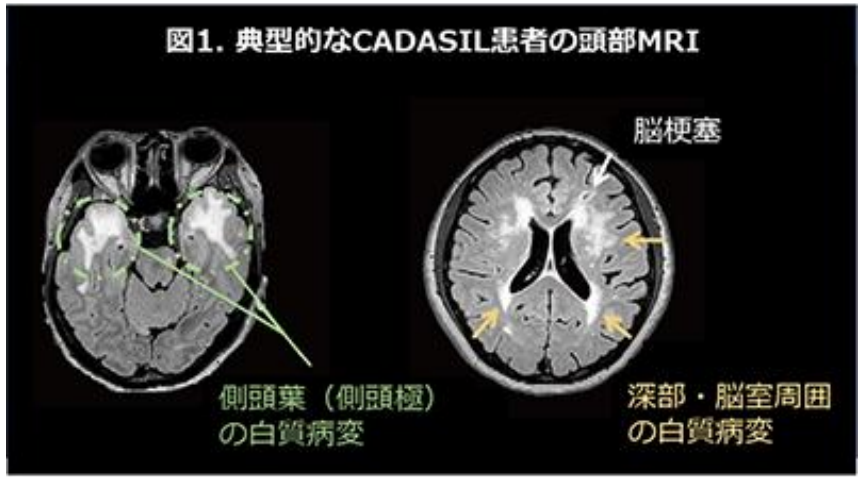
「日本発・世界初」の画期的な新薬として、2030年の早期承認を目指す

カダシル

脳の血管に障害が生じる遺伝性難病。
（厚生労働省の指定難病「124」）

片頭痛、脳梗塞、認知症の症状が出る。

根本的な治療法が確立されていない。



出所：国立循環器病研究センター

研究体制



国立循環器病研究センター

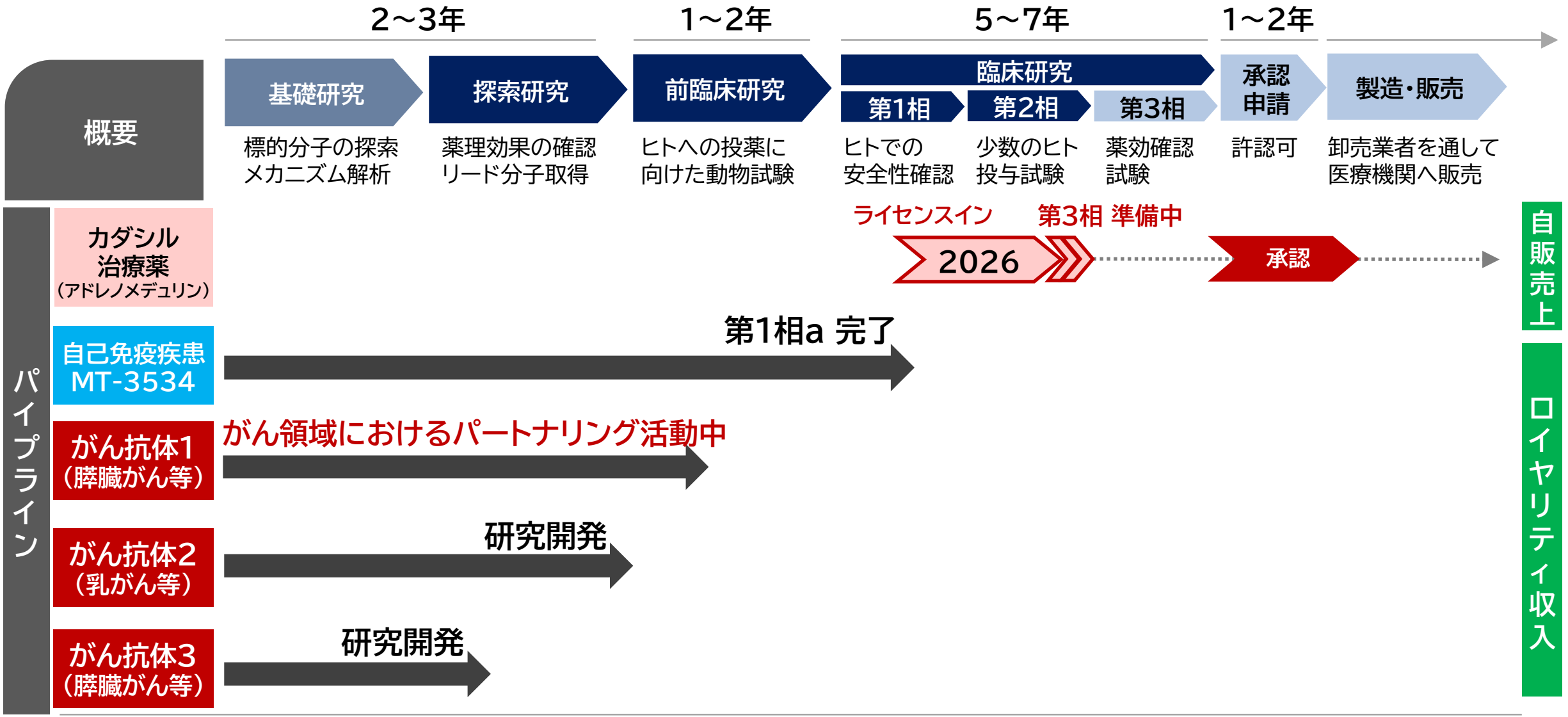
副院長　脳神経内科部長
猪原 匡史 先生

- 猪原先生は、カダシル研究と治療における第一人者。
- ファーマフーズと「カダシル創薬研究部」を設立し、病態解明と新薬「アドレノメデュリン」開発を推進。

創薬事業

カダシル治療薬の承認後、中核的な収益柱への育成を図る。

01 成長事業「創薬」: 独自技術を活かした研究開発パイプライン展望



*当社が開発した抗体医薬品シーズ がん特異的抗体
※今後の展望は当社が作成したものであり、パイプラインの進捗やライセンス契約、承認等を保証するものではございません

01 経産省「バイオものづくり革命推進事業（51億円）」に採択。新たな事業が確立。







卵殻膜
1万t/年

液状化卵殻膜





ハイブリッド繊維



卵殻膜繊維
ovoveil



卵殻膜ペプチド



アグリ
バイオ
スティミュラント



卵殻膜ナノファイバー



電極材料

01 成長事業「繊維」: 新規ハイブリッド繊維 ovoveil（オボヴェール）



廃棄予定の卵殻



卵殻膜を分離



卵殻膜

加水
分解





セルロースと混合、
繊維化＝ovoveil



01 成長事業「繊維」: 大阪関西万博にて「ovoveil」を世界中に披露



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025

01 成長事業「繊維」: Paris Collection 2025にてovoveilが大注目



doublet®: Spring＆Summer 2026

01 成長事業「繊維」：欧州中心に注目を浴び、「ovoveil」の認知が拡大



LVMH（モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン）
メティエ ダール主催の特別展に招待。



世界最高峰ファッション素材見本市
「プルミエール・ヴィジョン・パリ」に出展。

01 成長事業「繊維」：国内外でovoveil販売が開始。’31年売上30億円を見込む



セレクトショップ「BIOTOP」が開発した、ovoveilデニムコレクションが発売開始

01 成長事業「繊維」：国際展示会（ドイツ）にて、「ovoveil」がセルロース部門賞を受賞

WINNER

CELLULOSE AWARD

Pharma Foods International Co., Ltd.

OVO/CAS PL KNIT



PFI, a Japanese R&D company specializing in functional foods, developed ovoveil, an eco-conscious regenerated fiber that upcycles eggshell membranes from the 10,000 tons annually discarded by Japan's food industry. Certified under OEKO-TEX® STANDARD 100 (Class 1), ovoveil is fre...

see details

ovoveilがセルロース部門のAwardを受賞


CELLULOSE AWARD
Pharma Foods International Co., Ltd.
EXPERT TALK

01 成長事業「アグリ」: バイオスティミュラント(BS)により世界の農業危機を救う



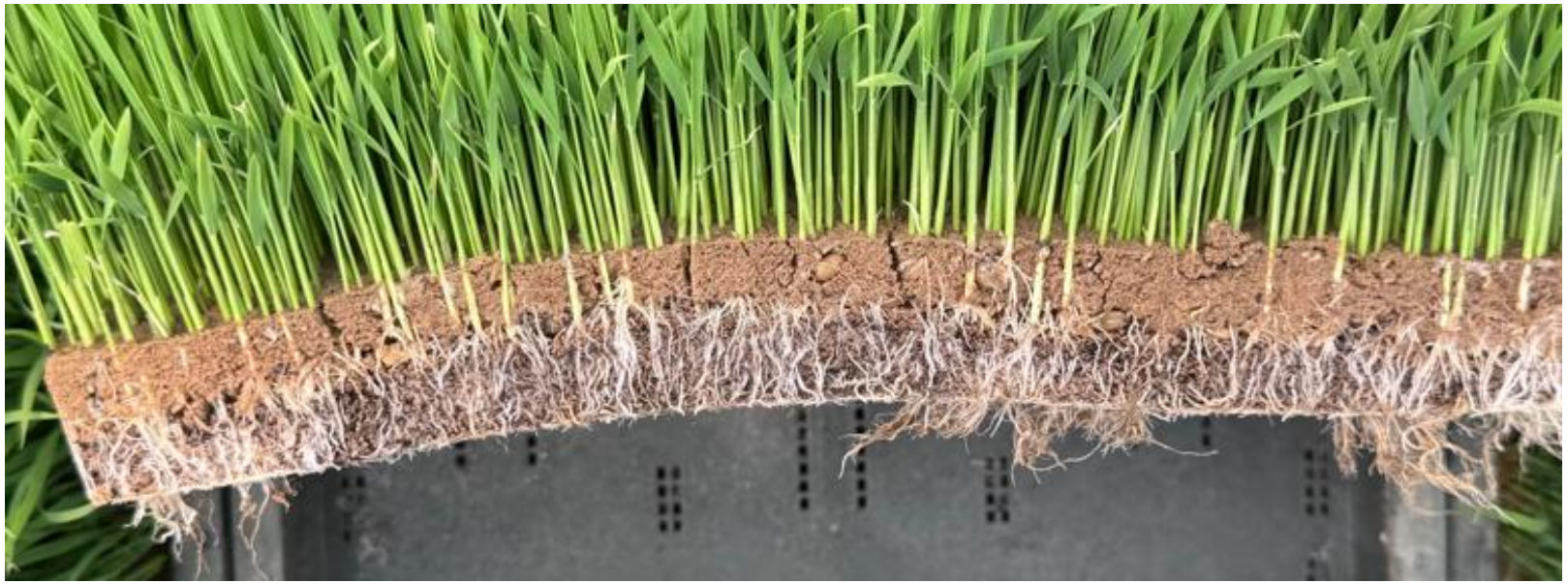
01 成長事業「アグリ」: BS「ルートクイーン」が猛暑下の水稲栽培を救う



26年は全国8府県（東北～九州）における17圃場にてお米に対する実証試験を実施。

01 成長事業「アグリ」: BS「ルートクイーン」が猛暑下の水稲栽培を救う

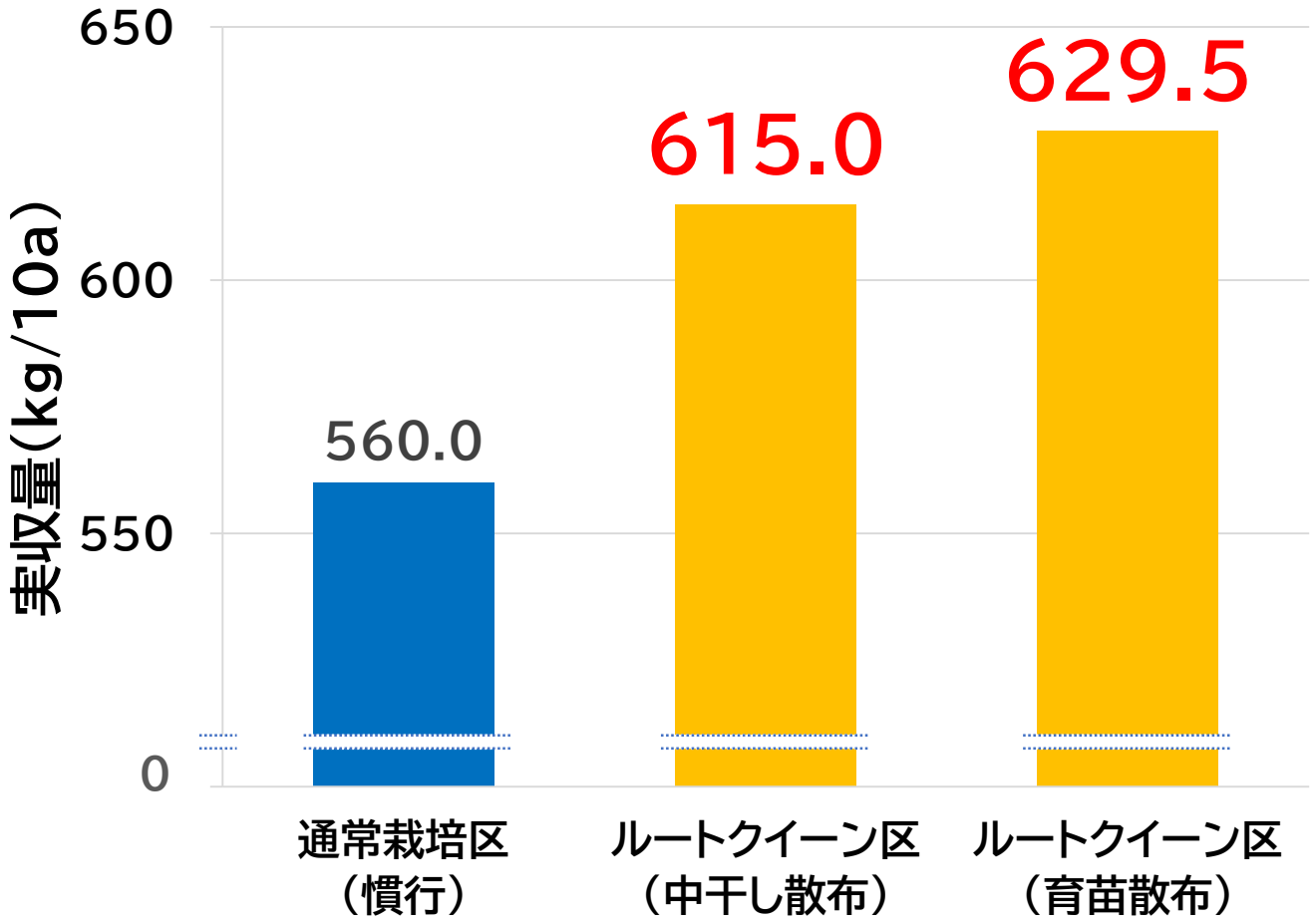
通常栽培
（慣行区）



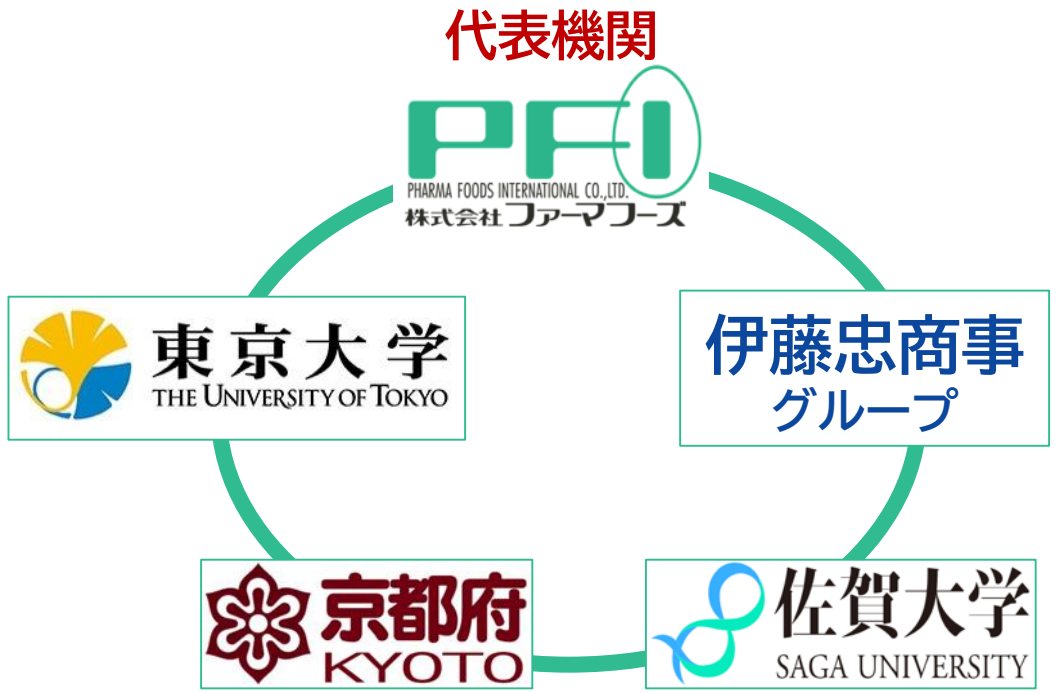
ルート
クイーン
散布



01 成長事業「アグリ」：国内でBS販売開始。’31年売上10億円を見込む



年1回のBS散布により
実収量が9.8～12.4%増加。
（2026年秋田県。品種：あきたこまち）



農水省「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」に採択。
産学で連携し事業化を加速。

01 未利用資源が未来を動かす：卵殻膜から生まれた新電極材料

卵殻膜からアップサイクルされた新たな電極材料は、従来の材料を凌駕する蓄電容量と出力性能を有する。
さらに、10,000回の充電サイクル後も90%以上の蓄電能力を保持する優れた長期安定性が示された。

回収した
卵殻膜



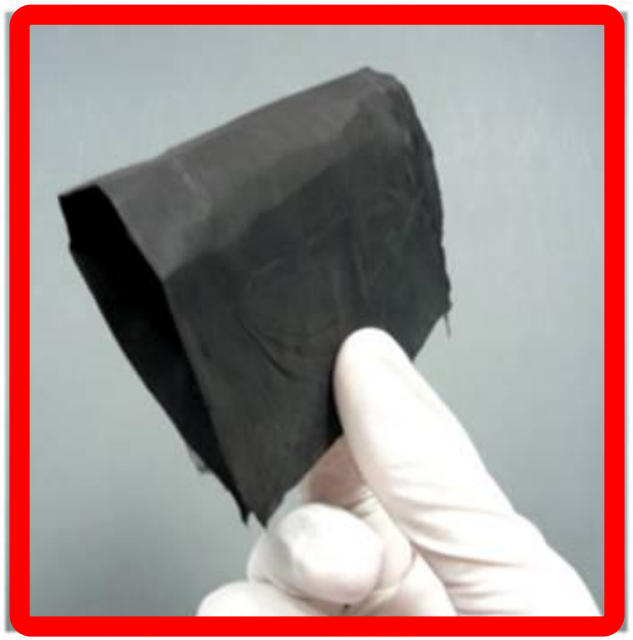
液状化した
卵殻膜



卵殻膜
ナノファイバー



卵殻膜から生まれた
新たな電極材料（シート）



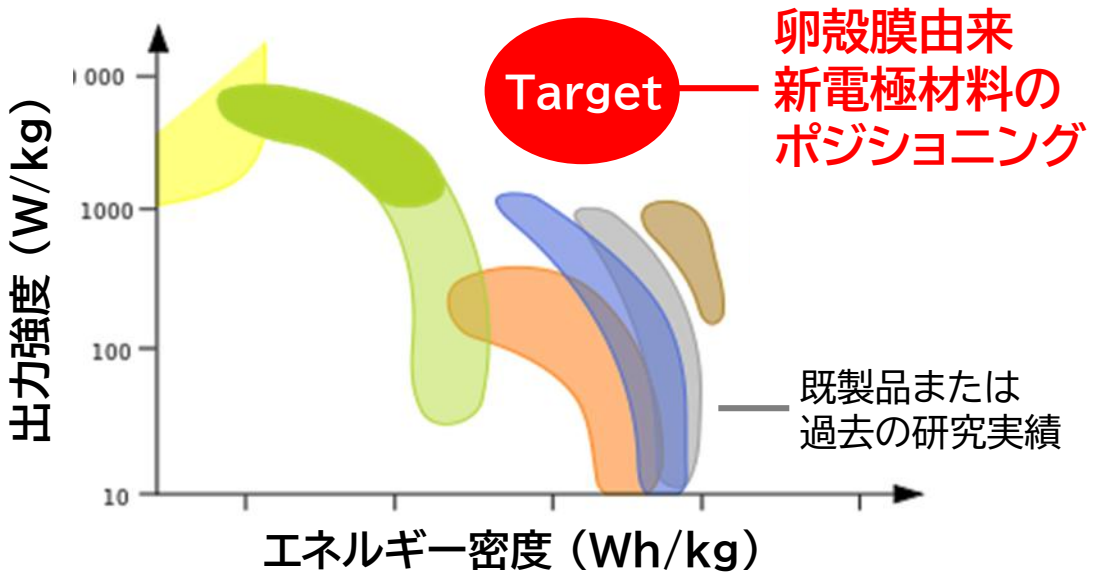
2026年3月11日付
プレスリリース

出典：Mayakrishnan *et al.*, ***J Energy Storage.*** 2026;141(C):119341.
Mayakrishnan *et al.*, ***Adv Compos Hybrid Mater.*** 2025;8:428.

01 次世代の高性能電極材料として社会実装へ

本材料が実現する3つの優位性

- 急速蓄電
- 瞬発出力
- 長期安定性



応用が期待される分野





スマートデバイス産業



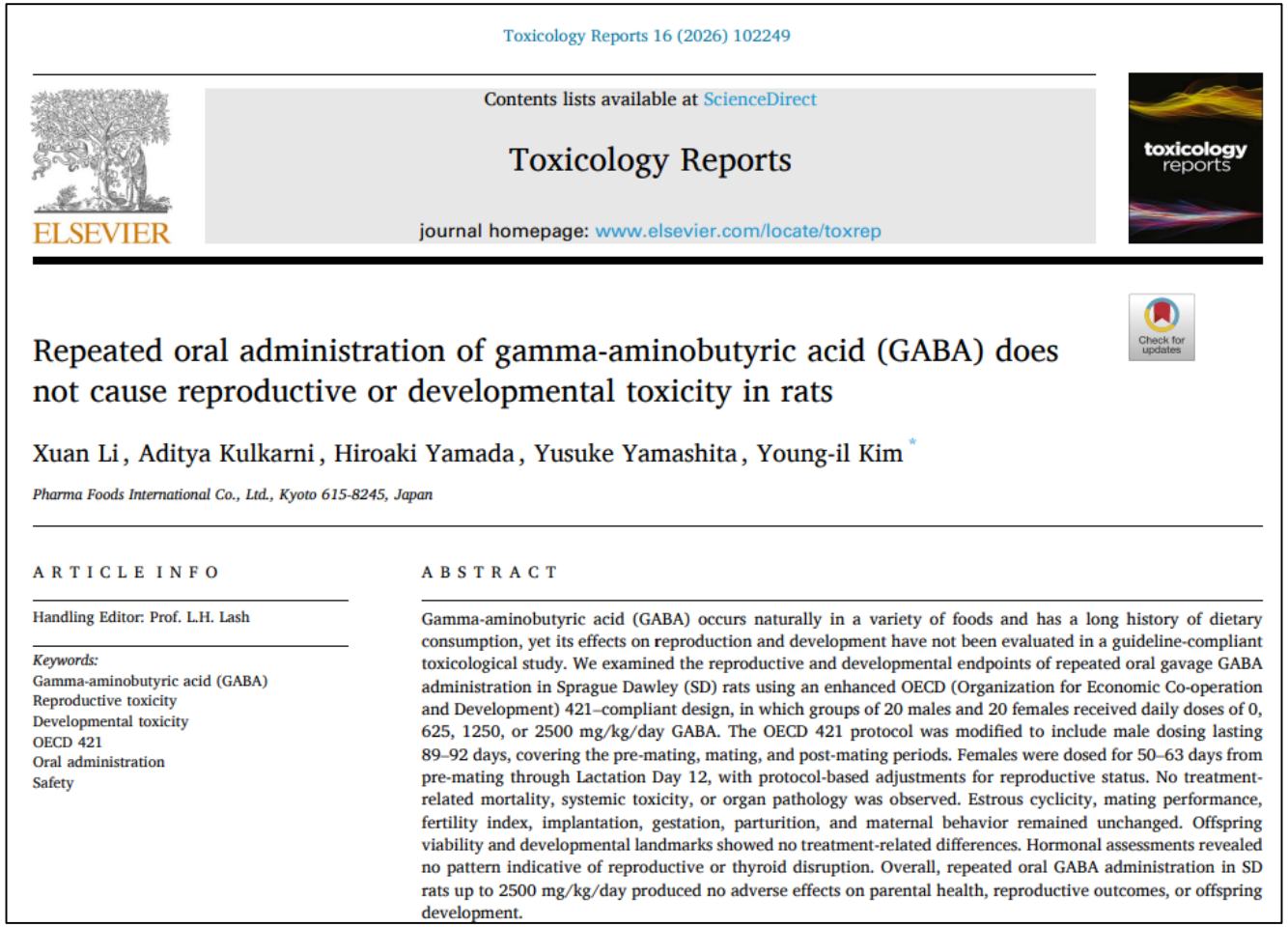
ドローン



大規模データセンター

電圧負荷の高いハイテク産業

02 基盤事業：PharmaGABA®の安全性データにより欧州展開が加速



Toxicology Reports 16 (2026) 102249

Contents lists available at ScienceDirect

Toxicology Reports

journal homepage: www.elsevier.com/locate/toxrep

Repeated oral administration of gamma-aminobutyric acid (GABA) does not cause reproductive or developmental toxicity in rats

Xuan Li, Aditya Kulkarni, Hiroaki Yamada, Yusuke Yamashita, Young-il Kim *

Pharma Foods International Co., Ltd., Kyoto 615-8245, Japan

ARTICLE INFO

Handling Editor: Prof. L.H. Lash

Keywords:
Gamma-aminobutyric acid (GABA)
Reproductive toxicity
Developmental toxicity
OECD 421
Oral administration
Safety

ABSTRACT

Gamma-aminobutyric acid (GABA) occurs naturally in a variety of foods and has a long history of dietary consumption, yet its effects on reproduction and development have not been evaluated in a guideline-compliant toxicological study. We examined the reproductive and developmental endpoints of repeated oral gavage GABA administration in Sprague Dawley (SD) rats using an enhanced OECD (Organization for Economic Co-operation and Development) 421–compliant design, in which groups of 20 males and 20 females received daily doses of 0, 625, 1250, or 2500 mg/kg/day GABA. The OECD 421 protocol was modified to include male dosing lasting 89–92 days, covering the pre-mating, mating, and post-mating periods. Females were dosed for 50–63 days from pre-mating through Lactation Day 12, with protocol-based adjustments for reproductive status. No treatment-related mortality, systemic toxicity, or organ pathology was observed. Estrous cyclicity, mating performance, fertility index, implantation, gestation, parturition, and maternal behavior remained unchanged. Offspring viability and developmental landmarks showed no treatment-related differences. Hormonal assessments revealed no pattern indicative of reproductive or thyroid disruption. Overall, repeated oral GABA administration in SD rats up to 2500 mg/kg/day produced no adverse effects on parental health, reproductive outcomes, or offspring development.

PharmaGABA®の長期かつ継続的摂取に対する安全性データが国際学術誌に掲載。
本成果により、安全性を最重視するグローバル企業からの採用がさらに促進。

（出典：*Toxicology Reports.* Volume 16, June 2026, 102249.）

02 基盤事業：PharmaGABA® が“ISPH Gold Award” を受賞



PharmaGABA®

国際精密医療学会において、
PharmaGABAがGold Awardを受賞。

※国際精密医療学会(International Society for Precision Health)が、科学的卓越性と革新性を通じて精密医療分野の発展に貢献した技術・商品を厳正に審査。
当社を含め、5つ商品がGold Awardに選ばれた。

02 基盤事業：“北里プレミアムAWARD”最高金賞受賞







「ノウベルQi2」（PharmaGABA®配合したサプリ）
最上位の「最高金賞」を受賞

※KITAZATO Award：（一社）日本品質評価機構が運営する品質評価制度。
専門家が品質・安全性、表示の適正性、製造・衛生管理体制など多面的に審査。

02 基盤事業：GABAに続く機能性素材で国内外のビジネスを強化

1 骨・関節強化



カルピスキッズ
（エルビー）

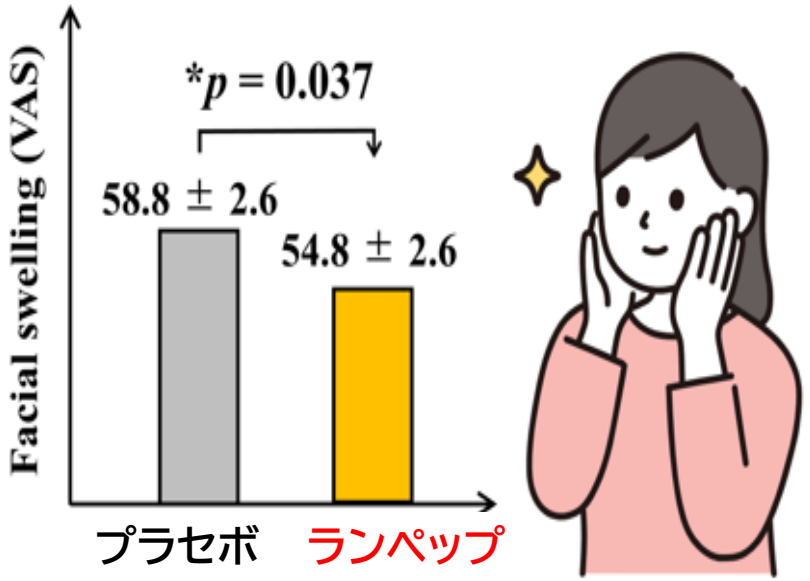


子供向け乳飲料
（韓国Seoul Milk）

BONEPEP®

（*Regen Ther.* 2022 など）

2 むくみ軽減

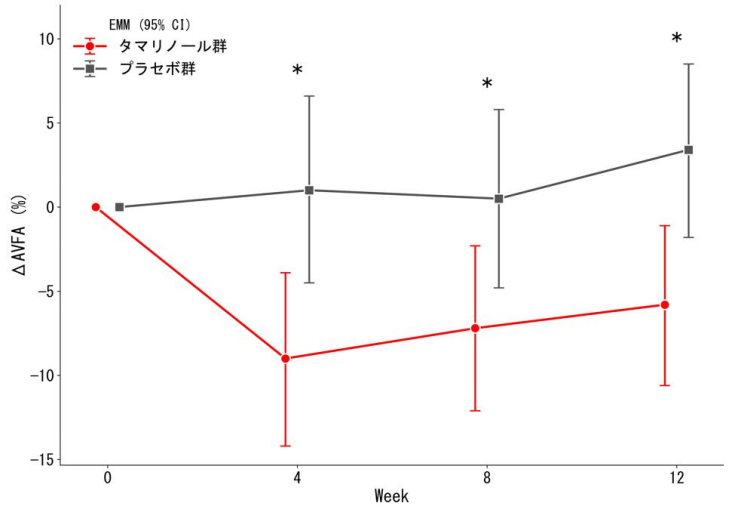


ランペップ摂取により、
顔の“むくみ”が軽減

RUNPEP®

（*Journal of Food Bioactives.* 2026）

3 内臓脂肪軽減



タマリノール摂取により、
内臓脂肪の蓄積が軽減

タマリノール

（*Journal of Food Bioactives.* 2026）

02 基盤事業「海外事業」：グローバル成長を加速する人財戦略



GST（Global Solution Team）を構築。
当社「技術価値」のグローバル展開を促進。

Institute of Science and Technology
Nara
NAIST®

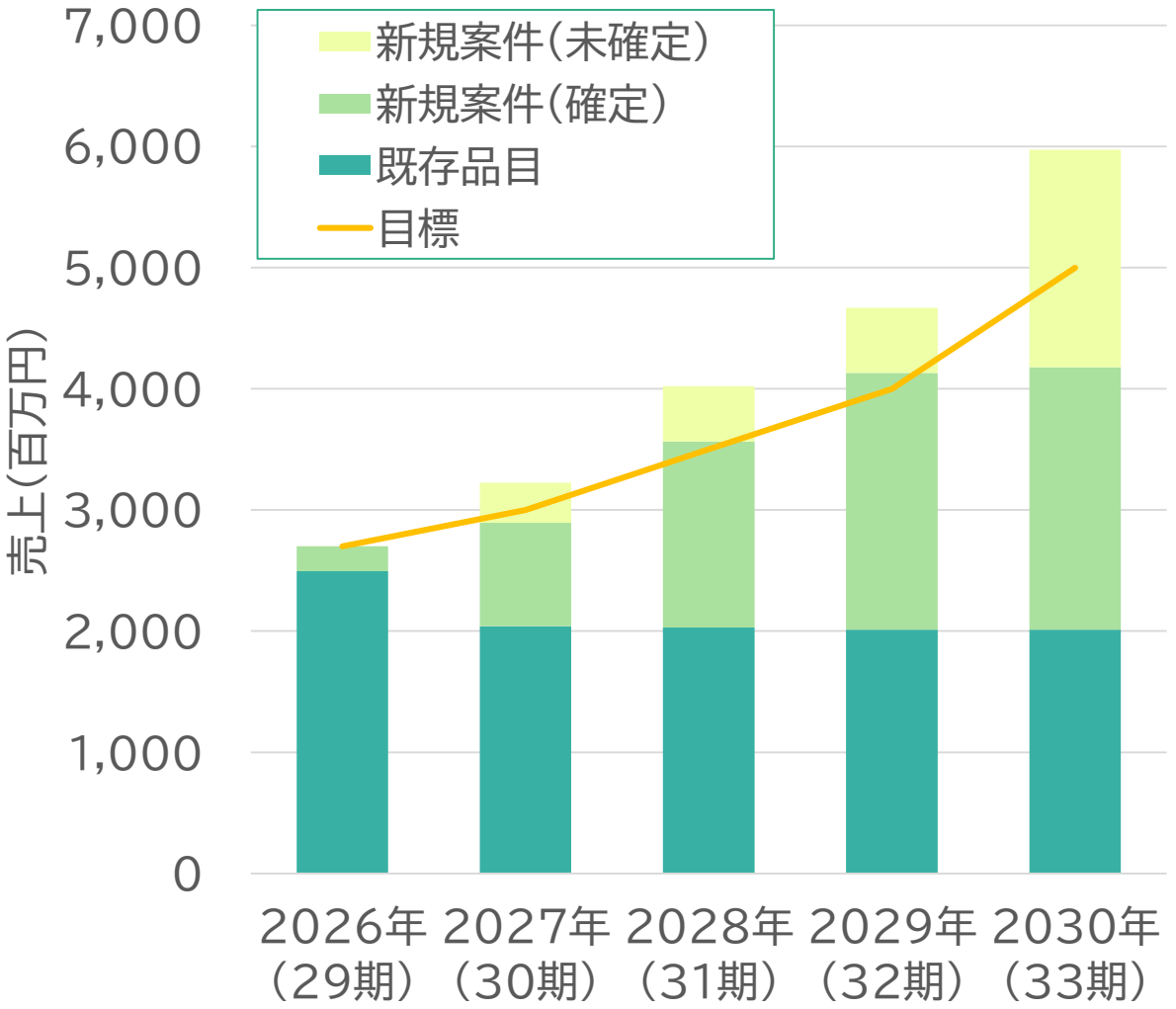
OIST

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

奈良先端科学技術大学、沖縄科学技術大学、
立命館APUと連携し、人財の積極採用。

02 基盤事業「明治薬品」：新工場によりCMO事業が強固な利益基盤に





2029年から新工場が本格稼働。
（26年7月に着工開始）

5年後の売上目標50億円に対し、
すでに約41億円分の受託契約を獲得済。

02 基盤事業「BtoC」：営業CFを安定化＆黒字化

- 【リピート率およびロイヤル顧客比率向上】
  単年度利益40億円を維持。その範囲で効率的な広告投資を実行する。

- 【商品回転率の促進とキャッシュ化】
  商品の販売促進仕組み化、棚卸資産の増加抑制、単年度での営業CF黒字。



03 M&A戦略：マリン・プロフーズ社を100%株式取得契約



2026年10月6日にファーマフーズグループにジョイン

03 M&A戦略：マリン・プロフーズ社を100%株式取得契約

マリン・プロフーズ 3つの強み

01 大手食品メーカー由来の信頼

・紀文グループやキッコーマングループの事業運営を経て独立。
・水産加工品など良質なフィッシュプロテイン製品をラインナップ。

02 病院食・介護食・給食を中心とした強固な販路

・病院・介護施設、学校・企業給食、外食、中食へ展開
・安定した顧客基盤にて、2026年3月期売上高9,475百万円

03 ファブレス企業でアセットライトなビジネスモデル

・おいしく安心の商品に定評があり、その商品企画と販売に特化。
・ファブレスであり、大規模な設備投資は不要。



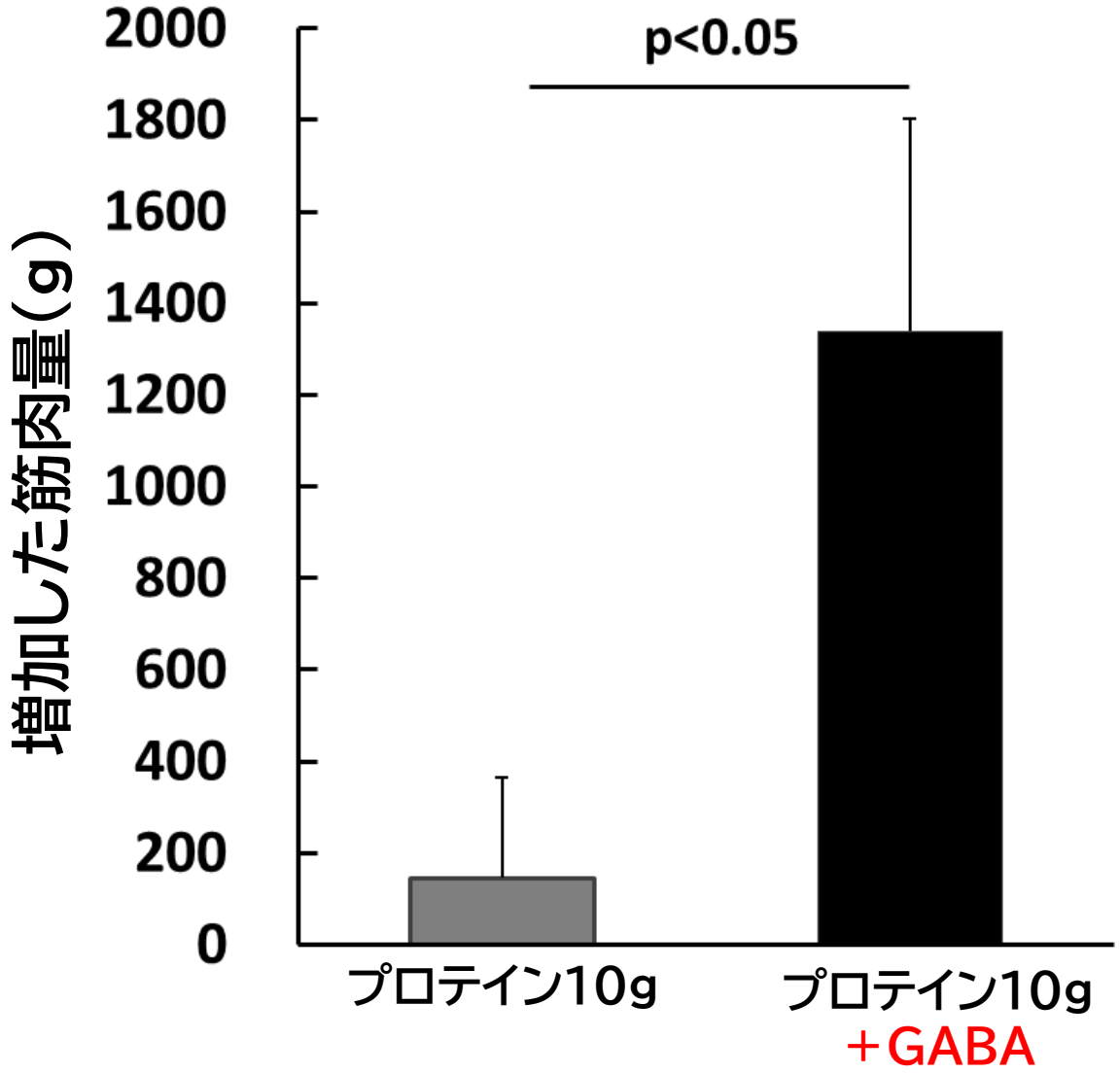
MarineProfoods
株式会社マリン・プロフーズ

03 M&A戦略：マリン・プロフーズ社×ファーマフーズの狙い

メディカルフード

- 美味しさ
- 安心安全
- 栄養と機能の同居

03 M&A戦略：栄養と機能の同居したメディカルフード



プロテイン×GABAにより筋肉量が7倍増加

J Clin Med Res. 2019

03 M&A戦略：新たな成長領域「メディカルフード事業」を創出

MarineProfoods
株式会社マリン・プロフーズ

PHARMA FOODS INTERNATIONAL CO.,LTD.
株式会社ファーマフーズ

・毎日食べたくなる美味しさ
・良質なフィッシュプロテイン
・安心安全な商品設計

×

・シニアや子供の健康に適した
機能性食品素材

PharmaGABA®　BONEPEP®

『メディカルフード』を病院や介護施設などに展開。
大手商社・製薬企業と連携して、さらなる事業拡大を目指す。

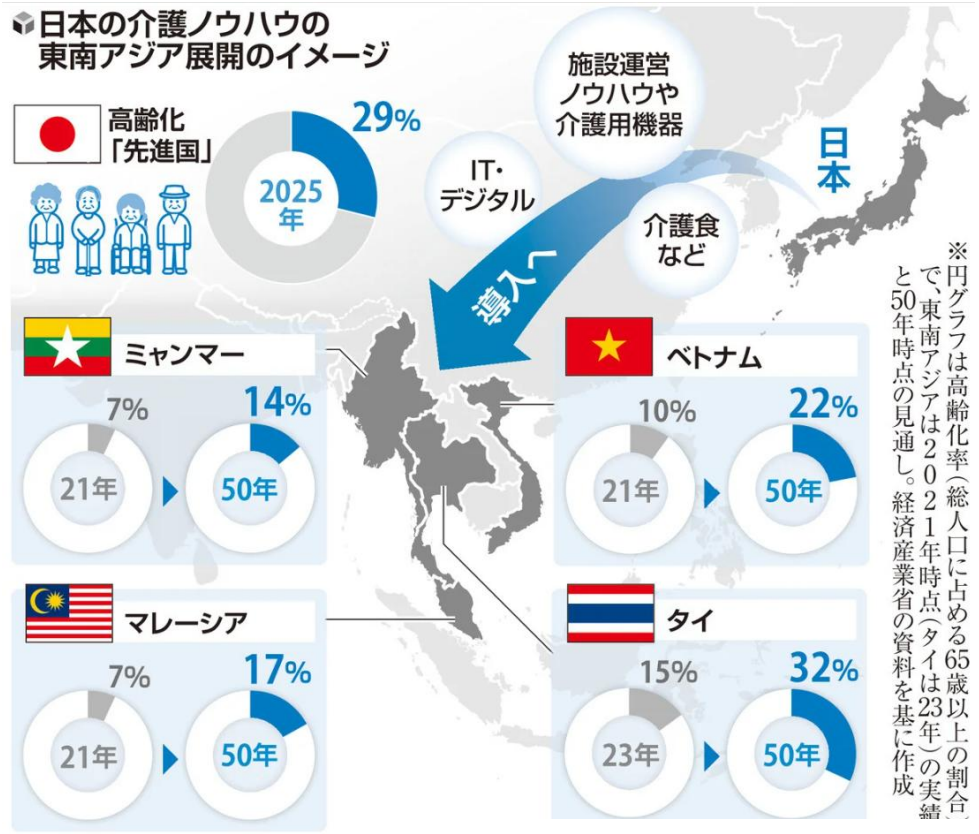
03 M&A戦略:「メディカルフード事業」のさらなる市場拡大

国内BtoC市場の拡大



機能性×フィッシュプロテインを活用し、
大手CVSや大型GMSなど新たな市場を拡大。

海外市場での展開拡大



出典: 読売新聞(2025/12/13)

介護市場が増加するアジア圏を中心に
メディカルフード事業を展開。

中期経営計画2029「1Kプロジェクト -SPRING戦略-」財務目標

	‘26年7月（29期）	‘27年7月（30期）	‘28年7月（31期）	‘29年7月（32期）
売上(百万円)	63,223	67,000	69,000	72,000
営業利益(百万円)	2,632	3,000	3,300	4,400
営業利益率(%)	4.2%	4.5%	4.8%	6.1%

【SPRING戦略の基本方針】

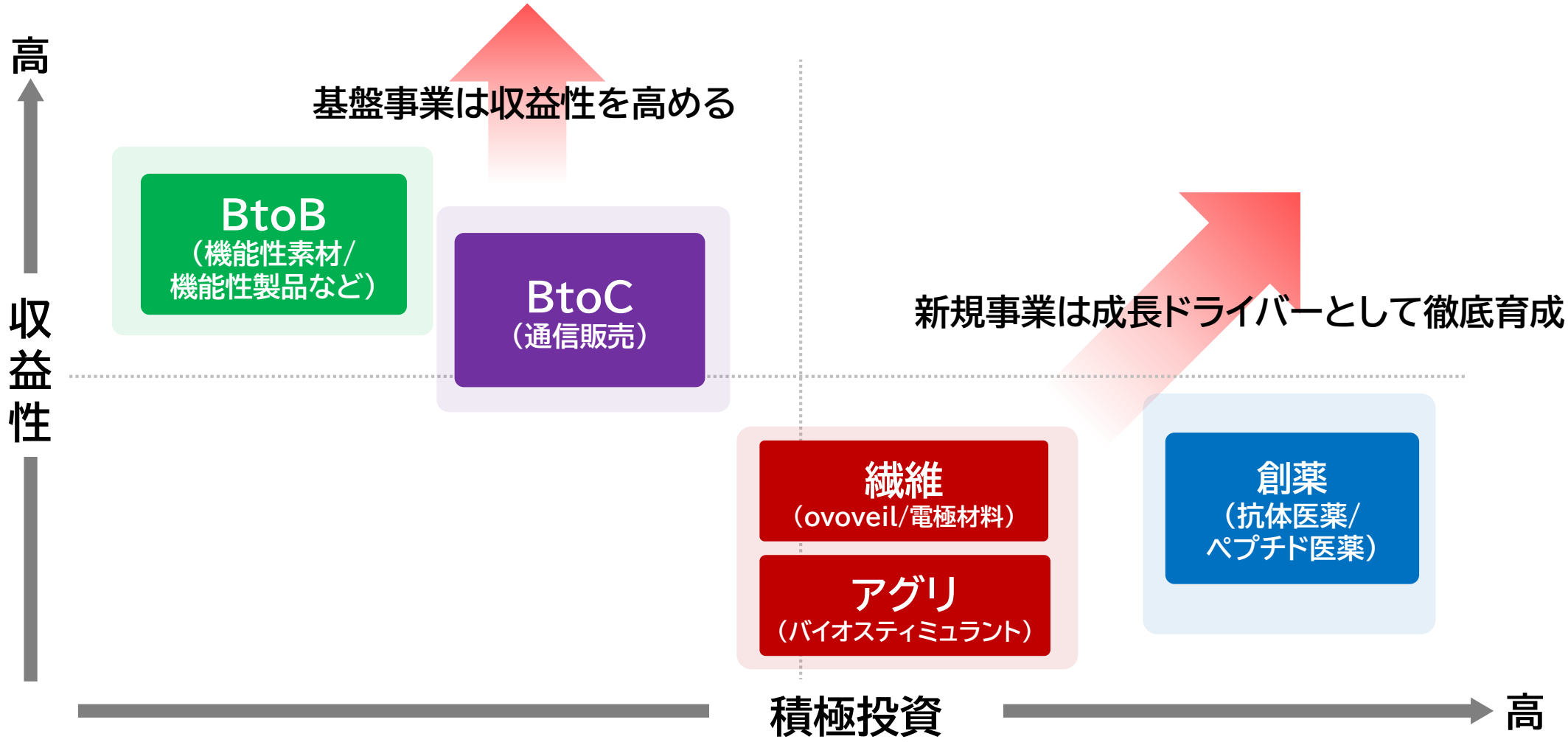
- 新規事業「創薬、繊維、アグリ」を積極育成し、次の事業の柱に。
- 基盤事業「BtoB、BtoC」の営業CFを安定・黒字化させ、財務基盤を強化。
- 「M&A」等を駆使し、連続的かつ飛躍的成長により「1K達成」に挑む。

中期経営計画2029「1Kプロジェクト -SPRING戦略-」財務目標

	2026年7月期	2029年7月期
売上高	632億円	720億円
営業利益	26億円 営業利益率 4.2%	44億円 営業利益率 6.1%
営業CF	▲11.8億円 営業CF率 ▲1.9%	34億円 営業CF率 4. 8%
EPS	68円 当社EPS最高値132円(21年7月期)	111円

事業成長ポートフォリオ

- 既存事業のBtoB/BtoCは財務基盤を徹底強化し、収益性を高める。
- 次の柱となる創薬・繊維・アグリは成長対象として積極育成する。
- 連続的なM＆Aにより、飛躍的な成長につなげ、「1K達成」に挑む。



ここには
夢があり
笑があり